

今春、我が仙台二高同窓会は開設以来の危機を体験しつつある。男子校として大いに成果を挙げて来た本学のあり方、やり方にかなりの変更を余儀なくされることになった。かつて、本校でも教頭を勤められた某教育長が、中学校に指示して学業成績一位より十位までの卒業生は一高に、第十一位から二十位までは二高を受験するようにされたが、今以って私には理由は分からぬまい。現実に公立でも共学校がある今日、郡部には別ないが、当時過度の受験勉強を回避させるためということであった。

其処に永らく維持してきた本学の男子校としての伝統を毀すことになるということは、納得出来ないことと言わねばならない。現実に公立でも共学校とかあり得ないということを根拠にして折角順調以上

ところが効果は丸で裏目に出て、受験合格率は逆に二高が上に出るようなことになり、今や全国版高校と言われるようになってきたのは今日判然と見られるところである。しかも本学の名校长のお一人に入つておられる方の文武一道教育が見事に効を奏して、後に伸びる若者を送り出していく

ところが効果は丸で裏目に出て、受験合格率は逆に二高が上に出るようなことになり、今や全国版高校と言われるようになってきたのは今日判然と見られるところである。しかも本学の名校长のお一人に入つておられる方の文武一道教育が見事に効を奏して、後に伸びる若者を送り出していく



## 卷頭言 会長 西澤潤一

# 同窓会報

平成19年度春季号

発行 宮城県仙台第二高等学校  
同窓会事務局  
仙台市青葉区川内瀬橋通一  
☎ 二二一五五六五（直通）  
印 刷 創文印刷出版株式会社  
仙台市青葉区春日町八番三四号

に育ちつつあった本校にこのような災厄を被せるとは全く理解に苦しむところである。当時から発言していたように、本学以上に歴史を誇ってきた県立第一女子高校は新入生募集にも苦労されて定員割れを起されたと伺った。

充分に思慮の行き届いた歳

になれば共学にも効果が出てこようが、未だ実社会の経験も乏しい若者が、充分以上に発達した身体を与えられて共生してゆくときに、禁欲を解

除された従来の伝統外で育つてくる今日、充分に相手の尊厳を配慮した行動が期待出来るものだろうか。夫婦寮のみならず同棲寮まで用意されている米国の大学に於ては、人間の欲望に対して大巾に寛容であると言えるが、卒業とともに手を振つて別れてゆく同棲者達はよいとして間にできる子は大抵の場合、そのまま孤児院に送られることとなり、

同期の方、お誘い合わせの上、  
多数ご参加下さい。

## 平成19年度 同窓会総会のご案内

1. 日 時：平成19年6月30日（土）総会17時（受付開始は16時30分）懇親会18時

2. 場 所：江陽グランドホテル

3. 懇親会費：6,000円

4. 申込締切：6月21日（木）

★懇親会費は当日、会場でお支払い下さい。

★出席申込は、下記の申込先に、FAX又は電話でお願いします。

5. 申込先：〒980-8631 仙台市青葉区川内瀬橋通1

仙台二高同窓会事務局 TEL 022-221-5651 FAX 022-221-5686

6. 当番回期：高18、30、31、42、43回

この回期の方々は常任委員を中心にご協力をお願ひいたします。

★なお、今年は会場が変わります。ご注意下さい。

とが出来てない。逆に、相手に対し、物心両面から充足した生活を提供したいと考えて禁欲した我々の青春時代には我慢という社会人としての通念が養成された思い出を持つ。幸福とは只、棚からボタ餅でなく、我慢することから始まるという対人関係の入門を苦い思い出と共に学習したものなのである。

「婆あ持つ児は三百安い」という怪しからん俚言がある。感情的な愛情豊かな祖母に可愛がられて育った男児は、男らしい点に欠けるところがある。でも翻訳出来ようが、可愛い女子に賛美されながら教育を受けていると、ついつい努力に欠けるところが出て来るものであると体験的に考えている。これを逆用して教育効果を高からしめようという考え方もあるやに聞いているが、このような浅い教育的配慮では、一寸ウケを狙う浅薄な男性ばかり育つようになってくるのではないかということも心配になつてこようものである。

しかし、既に本春七十名程の女生徒が入学された。我々同窓生としても、彼女等がこ

れまでに述べたような心配は全くの杞憂であると思えるように立派な成果を認められて、本校が永きに亘って誇ることには同窓生の一人として私も応分の協力は惜しまないつもりであるのは述べるまでもない。

しかし、既に共学を実施して永い西南方向に位する諸校の実績や米国に於ける反省などを基礎にして考える限り、今猶、共学化に賛同する気にはならず、私個人としては、私見に賛同される会員の方々と共に中止運動を続けてゆく心積もりである。

知つていながら教えて下さ

らなかつた会員乃至会員以外

の方々に對して大きな不信感

を持つことを禁じ得ないので

あるが、そんな自主性を持つことも出来なかつた己の無学

と不注意に對して心から謝罪

しなければならない。今後、いつも適正な手法で効果判定を継続しながら改革をやっていく科学的教育法の実現には従来通り努力を継続する一方、この大きな変革とも言える共

学問題こそ、天が我々に与え

た試練と言うべきものだと考

えているが、これまでの失敗

については心からお詫び申し

上げる。

昨年中学42回卒和賀井敏夫

卒の平朝彦氏が引きつづいて

受賞された。正に稀有の事で

ある。特に平博士の東北大学

氏が八十二才にして学士院賞

に輝いたが、今年は高校17回

卒の平朝彦氏が引きつづいて

受賞された。正に稀有の事で

ある。特に平博士の東北大学

時代の師は中学44回卒の高柳

洋吉教授であるから正に純血

種である。

## 五月一日創立記念日の記念講演

高9回（昭和三十二年）卒 麻 喜 宏 雄

同氏は現在同窓会副会長で、

在学中改正応援團規定に基く、

公選制による第一回応援團長

でありました。総合体育大会

五連覇を目指すも、残念乍ら

涙し乍らも、対一高定期戦に

勝利し、特筆すべ

きは、N H K 合唱コンクール

に於いて、初めて男性合唱團

として、全国三位入賞を成し

遂げ、野球部の夏の甲子園出

場を果した学年でした。全教

職員、生徒を前に丁度五十年

前の活躍を昨日の様に生々し

く熱弁を奮われ、要旨、以下

の通り御報告致します。

月、何となく落ちつか

ない居場所が四月二十

八日の大運動会を経て、

新入生は「二高生」と

して、二・三年生はそ

れぞれ「中堅」「リーダー」としての立場を

自覚し、更に対一高定

期戦を通して「母校」

を意識するものですが、

麻喜氏は、壇上で「一

高応援歌」を独唱。

「山も怒れば 万丈の

煙も吐いて 天を衝く

ゆるけき水も 激しては

千丈の堤 破るらむ

見よ 男性の意氣高く

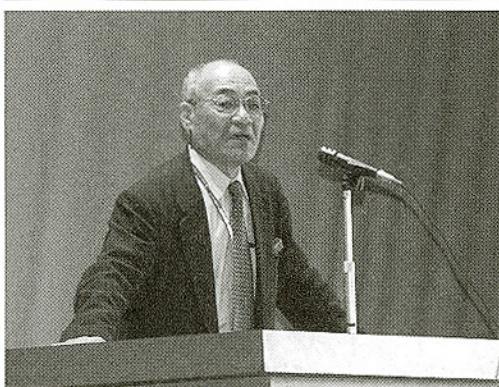
堂々と勝つ「高軍」

この一高応援歌は、否応無

く吾等を燃え立たせると。在

校生諸君の斗志を刺激する事

から始まりました。



新学年を迎えて一ヶ月、何となく落ちつかない居場所が四月二十日の大運動会を経て、新入生は「二高生」として、二・三年生はそれぞれ「中堅」「リーダー」としての立場を自覚し、更に対一高定期戦を通して「母校」を意識するものですが、麻喜氏は、壇上で「一高応援歌」を独唱。

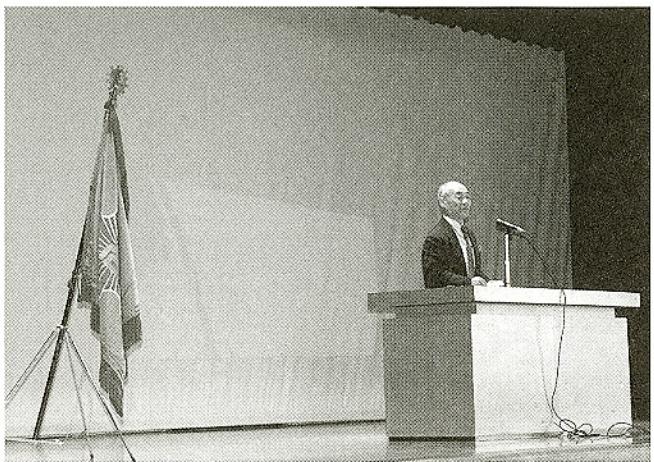
五十年前に、プラスバンド部、フェンシング部が同期の三島、今井両氏正宗氏の尽力で創部された事を紹介した後、昭和三十一年甲子園大会出場を中心に、その側面史を語られました。大正十四年に第一回出場を果たし一回戦で大連商業に敗れたものの、この年、今でも唄う「凱歌」が作られた事、野球部史より紹介されました。

本校には親子三代、二代、或いは兄弟共学んだという友人が多く、校風の良さを経験させたい親の気持ちの表われと。

麻喜氏の父君も同窓生で、小学三年生であつたにも拘わらず、昭和二十一年第二回目の甲子園出場時の様子を新聞を通して喰い入る様に見た事。前年優勝の大坂代表浪商を破り「小さな大投手」と激賞された二階堂先輩、下関商業をも破り準決勝で岐阜商業に敗れた時に、「泣くな二階堂!!」と各新聞は仙台二中の健斗一色の年でありました。九年振りの出場を果した昭和三十一年、部員は十四人のみ。毎試合に全力を期すのみ、県大会から甲子園まで大応援旗の元に結集した夏、奇跡とも言える宮城・山形・福島三県による東北大会の勝利は初戦福島高を延長で破り準決勝、仙台一高をも延長で下し、決勝で磐城高を破った瞬間、応援団幹部達が思わず顔を殴り合つて、夢でないことを確かめ合つた

事、遠征費用を先輩医師会を往訪、寄進を受け応援団十人のみの遠征でした。兵庫県滝川高校ブラスバンド部に応援依頼し応援歌「雨か嵐か」のみをマスターしてもらった事が対慶應高校との試合に正に適応したものでした。

優勝候補の一角であつた対慶應高戦は試合開始のサイレン止まぬ間に一点取られ「草野球ではないぞ!」の観客の罵声にも耐えて何とか三対三のまま六回終了。この時夏場特有の甲子園時雨、約一時間



の年出場校ペナントの売れ行きは、仙台二高がトップ。朝日新聞のマンガコラム欄も独占。見知らぬ人々が我が校に魅力を感じ支持してくれる有難さを感じずには居れませんでした。

我が校には崇高なる歴史を見ます。

一度の天覧試合の栄をうけたのは昭和二十二年の石川・富山国体に於ける対金沢三中の試合を、昭和三十一年兵庫国体に於ける対中京商業の準決勝戦、甲子園を目指す高校

試合中断、観客は避難無人のスタンンドで二高応援団のみが滝川高ブラスバンド部員と「雨か嵐か」の応援、二高の大応援旗が雨中にもそよ吹く風にかすかに棚引くも、慶應の三色旗は、ぐっしょりとたれ下がつたまま試合再開。驚く事には、二高中生十人滝川高生十人だけの応援団が見上げると約2千人の観客が、二高応援歌に合わせて、二高応援歌に合わせて、

感激に涙目の応援は、見事逆転勝利に凱旋、

「今はるかに創設の当初に想いを馳せ、本校が歩んだ五十五年の歴史をたどり偲べば、それは必ずしも坦々として平坦なものではなく幾多の困難も数多くの障碍もあつたのであります。しかし、そうした困難に堪えて不動の基を培い、そうした障礙を排して、不断の発展をとげしめたわが先人の労苦辛酸は並大抵のものではなかつたであろうと思ふのであります。我々はともすれば現

野球部四千数百校の中でも、我が二高だけであります。

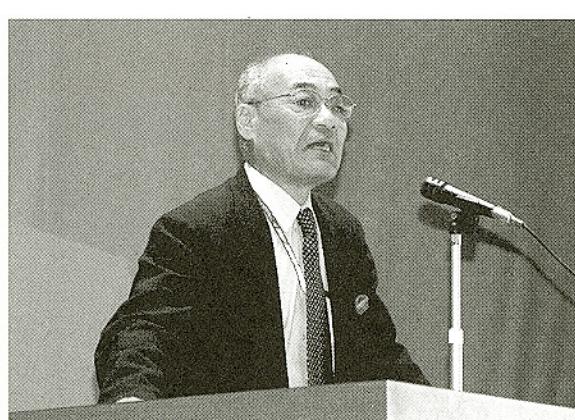
文武一道の校訓は文に於いても、日本学生院賞受賞者が、文化勲章の西沢会長はじめ、山川先輩、平先輩の五教授にも登場します。

榮光の歴史と伝統ある二高で悔い無き高校生活を送られた事を祈念し、最後に昭和三十年に五十五周年創立記念日に寄せられた山下忠校長の祝辞を利用されて講演をしめくられました。

「今はるかに創設の当初に想いを馳せ、本校が歩んだ五十五年の歴史をたどり偲べば、それは必ずしも坦々として平坦なものではなく幾多の困難も数多くの障碍もあつたのであります。しかし、そうした困難に堪えて不動の基を培い、そうした障礙を排して、不断の発展をとげしめたわが先人の労苦辛酸は並大抵のものではなかつたであろうと思ふのであります。我々はともすれば現

忘れ、更に之を懐め残すべき将来に眼を閉じがちなものであります。勿論茲に五十五周年を迎えて眼前に見るその盛運を喜び之を祝うこととはまさに結構であります。私はそれのみにとどまらず、我が先人先輩の此のなみなみならぬ業績劳苦に対しても、深い感謝の念をいだくと共に、之を紹き伏めて更に将来へ伝えるべき大きな責をも感ずべきであります。

以上約五十分の講演会でありました。



共学化問題特集

## 宮城県立高校一律共学化問題に関する当同窓会の対応状況について

理事（共学化問題担当）

高28回 佐藤 茂

平成十八年度からの共学化が  
平成十五年七月十八日突如と  
して発表され、以後同窓生、  
保護者から異論が噴出し、  
種々の反対運動が展開されて  
きた。本稿では、概ね昨年平  
成十八年九月以降の当同窓会  
の対応状況について述べる。

1. 各中学校への文書：今回の共学化は教育的な観点から行われるものではなく問題があるとの旨を記した文書を県内各中学校宛てに送付すると共にその中学校の卒業生が説明に訪問すること。これは今回の一律共学化の問題を県民一般に知つて頂く広報の一環

**問題特集**

2. 特区申請の要望：行政の諸規制に対して特区を認める制度を政府が推進しており、それを活用し、今般の一律共学化を一旦止めるため県教委の権限を一部知事に移す申請を出してはどうかとの提案を県に対して行うこと。

3. 一律共学化仙台市民意識調査結果の提出：平成十八年四月に行った、一律共学化に関する仙台市民意識調査の結果「一律共学化賛否拮抗」を知事、県議会議長、教育委員長、教育委員、教育長に正式に届け、県教委の平成十一年アンケート結果の正当性を問うもの。これは、県教委が平成十一年に行った共学化に関するアンケートでは、県民の七割近くが共学化に賛成とする結果であり、県教委はこれを一律共学化の根拠としているが、しかし問い合わせ的かつ誘導的であり、共学賛成が自動的に多数と成る様なものであり、また県議会などもこれを前提に議論を行っていないことから、改めて同窓会があつた。

4. 意見広告第三弾の検討・観的に行つたものである。

河北新報の紙面を用い、平成十八年三月十日の第一弾、平成十九年五月現在の成績を公表する。この結果は、主に第三弾の検討に用いられる。

二、上記方策に就いては下記の様な結果を得てある。（平成十九年五月現在）

1. 各中学校への文書：二高同窓会から各中学校へ文書が送られたことに対する反応が各中学校への指導を強化した旨の記事が十月二十四日讀賣（宮城）にて報ぜられた。

2. 特区申請の要望：十月三十日知事宛に提出。同様の要望書が一女同窓会有志からも有り同時に提出。その結果後日知事の口から一律共学化の約ではない「選挙であるから色々なことを言う」等の発言があり（十一月六日知事定例記者会見）、公約違反ではないか等各方面に波紋を広げた。

3. 意識調査結果の提出：十  
月三十日文書提出。一名の教  
育委員を除き「回答を控えさ  
せて頂く」との回答でしかなかっ  
た。本来、施策の根拠である  
以上、その正当性については  
教育委員会他より回答がある  
べきものだが、正当性を自ら  
説明出来ないことが判明した。  
因みに、一名の委員からは個  
人的な答えと断りを付した上  
で、共学化には反対である、  
仮に共学化賛成が九十九%で  
あろうが、アンケートという流  
動的なものを根拠として、学  
校の在り方を変えるのは不適  
切との旨の言葉を頂いた。

4. 意見広告第三段：平成十  
八年十一月二十三日（木）河  
北新報に掲載した。これにつ  
いても郵便等にて反響が寄せ  
られた。広告内容に賛同を示  
すものは記名であったが、異  
を唱えるものは何れも匿名で  
あつた。尚、この広告に対し  
ては「県立高校の共学を進め  
る弁護士有志の会」（会長佐  
藤美保弁護士）から質問状が  
十二月七日付けで当同窓会に  
寄せられた。その内容は別添  
の通りである。今まで共学  
化推進側からはまともな意見  
等が寄せられたことは無いこ

とから、この質問は重要と考  
え、同窓会として今日までの  
経緯や考え方を纏め資料をも付  
した上で答えを年明け一月二  
十七日付で先方に送付した。  
その内容は別添の通りである。  
また、この第三弾までの意見  
広告は、仙台廣告協会等が主  
催して毎年行っている仙台広  
告賞（第三十七回）に於いて  
新聞部門第一部金賞を受けた。  
(三月二十一日河北)全く思  
い掛けない副産物であった。

三、本年三月三日に開かれた  
評議員会においては共学化に  
関し次の様なことが為された。  
1. 九月九日評議員会の方策  
四件の結果を報告した。

2. 当同窓会として今般の共  
学化に対しては反対との姿勢  
を今後も堅持する旨が改めて  
確認された。

3. 一律共学化仙台市民意識  
調査の結果を更に広報すべく  
県議員各位への送達を決めた。  
(三月八日送達済み)この送  
り状にはやはり県教委平成十  
一年アンケートの正当性を問  
い回答を求める内容を含めた  
が、四通のみの回答を得てい

平成18年10月30日

宮城県知事  
村井嘉浩設

## 「県教育委員会の権限を貴譲に委譲する為の構造改革特区申請」の要請

宮城県仙台第二高等学校  
同窓会長 西原 駿

時下益々御健勝の事と存じます。

私共宮城県仙台第二高等学校同窓会は、県教育委員会の権限を貴譲に委譲する為の構造改革特区申請を要請致します。

1. 県教育委員会による県立高校の一併共学化の推進に対し、私共は現状の別学校をも存続させる。共学校との併存を主張しております。この主張は如事選に於ける貴職立候補の族の公約と合致しておりました事は紛れもない事実であります。

2. 私共は貴職が公約実行の為、首記構造改革特区申請の下、民意を反映させた教育行政の実行を要請するものです。

3. 去る7月7日に閣議決定された政府の骨太方針にも「教育委員会制度については充分機能を果たしていない等の指摘を踏まえ、教育の政治的中立性の担保に留意しつつ、当面市町村の教育委員会の権限を首長へ委譲する特区の実施的な取組を進めると共に、教育行政の仕組、教育委員会制度について抜本的改革を行うこととし早急に結論を得る」と盛り込まれました。(7月31日付け日経新聞) この事は当然に県単位の教育行政にも及ぶものと考えます。

4. 早急に貴職は構造改革教育特区の申請の下、県教育委員会から権限委譲を受けて、別学校としての存続も可なりとの御判断をあれます様、重ねて要請を致すものです。

5. 貴意見を平成18年11月13日までご回答頂く度好く要望致します。

連絡先：980-8631 仙台市青葉区鏡橋通1  
宮城県仙台第二高等学校同窓会

平成18年9月16日

各中学校 校長様

## 「不要不急の共学化」

宮城県仙台第二高等学校  
同窓会長 西原 駿

謹啓 各月の秋 益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

私共、宮城県仙台第二高等学校同窓会は今般の県立高校一併共学化に異議を抱えております。

今般の一併共学化は「不要不急の共学化」と考えます。その理由を以下に記します。

- 1) 市内各別学校では、在校生も卒業生も保護者も一併共学化に反対しています。
- 2) 一律共学化の見直しを求める署名が10万筆に達しております。
- 3) 6月27日㈯には仙台一高、二高、官城一女、二女、三女の生徒約2000人が仙台中心部で共学反対を訴える街頭行進を行っています。
- 4) 今般の一併共学化は「男女が同歩して社会を創造するため県立高校すべて共学化する」とした浅野知事(当時)が自らの政治を教育に持ち込んだものであり、それを不妥と考える当同窓会は有志は、真摯な苦心をして仙台地方裁判所に行政訴訟を起こし目下争中です。
- 5) さて 6月17日㈯仙台二高に於ける学生説明会でも二高教頭から在学生の7割が共学化に反対である旨、説明がなされました。
- 6) 仙台二高の生徒保護者も8割が共学化に反対です。
- 7) 同窓会としても7割が共学化に反対です。
- 8) これ程社会問題化し且つ関係者の理解が得られていない状況にありながら、県教委は来年度の募集要項の変更を実行いたしました。(7月4日発行)

こうした状況で共学化を実行すれば、高等学校現場が混乱するのみならず、中学校にも混乱が波及することとなり、生徒や保護者やひいては県民に本当により良き結果をもたらすのか疑問です。

新聞の報ずる所では、本県の生徒さん達の学力が全国的に低位にあります。

また、さる4月当同窓会が民間調査会社に委託し仙台市民の皆様を対象に共学化について行った意識調査では、「現状を踏まえ、他の教育施策（学力向上、学医耐見直し）と優先順位を勘案すべき」との回答が1位となっていました。

『未見の我を見直せよ』と、しばしば引用致しますが、将来を担う少年少女の成長の過程において子供達の伸びたる才能と個性を開花させるにはどういう環境が良いのか、充分検討されるべきではないでしょうか？

教育的視点からの検討こそ必要です、中学校の先生方にも私共と一緒に考えて顶きたく存じます。

敬具

連絡先：980-8631 仙台市青葉区鏡橋通1  
宮城県仙台第二高等学校同窓会宮城県知事  
村井嘉浩設

## &lt;一併男女共学化に関する仙台市民意識調査の結果に就いて&gt;

平成18年10月27日  
宮城県仙台第二高等学校  
会長 西原 駿

去る4月に当同窓会より東日本リサーチ社に依頼し仙台市民を対象に一併男女共学化に関する意識調査を行った結果について御連絡申し上げます。

## 【調査結果の要点】

- ・当調査方式による仙台市民 1000 名対象の調査（男女 500 人ずつ、20 歳から 60 歳まで各世代 200 名ずつ、仙台市内 100 名ずつ、4 月実施）
- ・平成 19 年度より共学化が実行される仙台市内を対象とした調査。
- ・県のめども一併共学化に対して賛成が拮抗、賛成 34%、反対 38%
- ・県教委が平成 11 年に行った其共学化に関する県民アンケートの結果「共学化賛成は県民の 7 割近く」を否定する結果。

県教育委員会の平成 11 年の調査が正しいなら、7 割近くが賛成という数字が表現するはずです。

県教育委員会は、この平成 11 年の県民アンケートの結果<県民の 7 割近くが共学化に賛成>を根拠として一併共学化を推進しています。

また、県教育委員会の中での議論も、県民会文教費削減委員会の議論も、県議会本会議の議論もこの「県長の 7 割近くが共学化に賛成」という数字は再現されていません。

しかし、当同窓会が行った調査の結果は、上記県教委平成 11 年アンケートは作為的誘導的であるとの従来の指摘を裏付けています。科学的データとも言えず根拠としても薄弱です。

## 【結論】

- ・上記の名前の調査では一併共学化の賛否は拮抗しており、県教育委員会の主張する「県民の 7 割近くが共学化に賛成」という数字は再現されていない。
- ・県教育委員会も根拠も不正確な数字を前提に議論を行い決定を行っている。

県教育委員会も根拠も不正確な数字を前提に議論を行い決定を下しています。また、知事もそのまま予算執行をしています。これは大変困った事です。

県教育委員会平成 11 年アンケートの正当性について貴職の御意見を繰りたく存じます。平成 18 年 11 月 13 日までご回答願います。

連絡先：仙台二高同窓会  
980-8631 仙台市青葉区鏡橋通1 北館館内

別添：  
・宮城県立高校の「男女共学化」に関する調査報告書、平成 18 年 5 月株式会社東日本リサーチセンター。

県側等との取り扱いの文書  
はこの他多數あるが、紙面の  
制約により総ての文書の掲載  
は出来ないので御了承頂きた  
い。尚、関連文書は同窓会事  
務室に常備してあるので、御  
閲覧等賜りたい。

## 質問事項

質問1

- (1) 貴会の「県立高校一律共学化反対」の趣旨は、「仙台二高の共学化に反対」という趣旨でしょうか。それとも他の高校についても共学化反対という趣旨でしょうか。
- (2) 後者だとすれば、共学化すべきでない高校はどこですか。何故その高校なのですか。
- (3) 共学化すべきでない高校は、その他の高校と比べて特別の扱い(共学化の見送り)をすべきなのですか。特別の扱いをすべきだとする根拠をお示しください。

質問2

- (1) 貴会は県立高校一律共学化の方針を「宗教委の暴走」と評価されていますが、県議会可決の決定を経た上で県教委は上記方針をとっています。にもかかわらず、そのように評価される根拠をお示しください。
- (2) 貴会は県教委のアンケートの結果の「7割賛成は垂れ操作」と断定しておりますが、その根拠をお示しください。
- (3) 貴会は県立高校の一律共学化を「汚辱」と評価されていますが、一高共学である他の都道府県の状況も「汚辱」と評価されるのでしょうか。もし、宮城県においてのみ「汚辱」と評価されるのであれば、その理由をお示しください。

質問3

仙台二高の共学化は決定し、既に来年度の募集要項も発表されています。そのような中で貴会は、本年9月に仙台二高の同窓会長名で各中学校長宛に「不要不急の共学化」と題する書面を配布されています。貴会は教育現場や中学生に混乱や不安を招くことをどのようにお考えですか。

貴会は仙台二高受験を希望している女子中学生に対して与える影響をどのようにお考えですか。貴会は女子中学生に受験を控えさせたいとお考えなのでですか。

質問4

仙台二高同窓生の有志は如事を相手取って差し止め裁判を起こし、自下級中と記載されていますが、そのような記載は「共学制度そのものの差し止め裁判である」との誤解を招く不正確な表現ではないでしょうか。

ちなみにこの裁判は「仙台二高共学化予算の支出命令の差し止め請求訴訟」のことと思われますが、既に男女共学化施設整備工事進行中(予定期房本年12月15日)であり、工事の完成、予算執行の完了が近い状況です。

質問5

県立高校は、県民全体のためのものです。同窓会、同窓生、在校生および保護者に、学校やこれから高校生の将来を決める他の県民以上の特別の権限や特権的地位があるとお考えなのでですか。その根拠をお示しください。

宮城県立高校の一高共学化に関する  
ご要旨>

平成19年1月27日  
宮城県仙台第二高等学校同窓会

今回の本県立高校一高共学化は「宮城県立高校特異構造」が原因となっているのですが、その経緯構成の成立過程とその内容に問題があります。今回の一高共学化は、前項よりの教員の主導から発生したのです。またその推進過程も強制的、一方的なもののです。育成構思に隠されている「男女共同教室」が何故全校共学化に結びついたのか合理性が見出せませんし、県教委が共学化の理由として挙げている事情も、共学化を強行するなどの根拠を有していません。以下要旨を記し、詳細は次頁以降に記します。

## 質問1 国連：県立高校一高共学化反対

私は、県教委が「出した想定」すべての県立高校を平成22年度で県立化するに見送りを有しています。この「一高共学化」は「一方の偏屈であり、県内の合意形成がされておりません。県教委は、「共学化は被検者の理解を得ながら進め」と県立高校特異構成(平成13年3月)に記載ています。しかし、理解が得られているとは言ひ難い状況です。理解が得られないまま進めていることが問題です。共学は仙台二高の実情に反対しております。別途学校については、それぞれの歴史、伝統を踏み仕事、保護者、同窓生等の意見を尊重すべきものと考えますが、現時の学校についてお答えしているだけではありません。

## 質問2 関連：県教委の暴走等

(1) 黒川校長待合室掲示物には共学化は「理解を得ながら」と記ってきましたが、県教委は理解を得られないことを示唆しているのが県立高校で実行できると公言しています。これを暴走と私は捉えております。(2) 平成11年の県教委アンケートは冒頭で「宮城県内男女別々に学ぶ公立高校の比率が全国で一番高い」とか、「全國的には共学化の流れ」とが確認してあります。これは誇張に当たります。また、調査対象には一般市民の他、中学校や高等学部も含まれていましたが、専門学校だけを対象とし、高等学校に至っては別校校長対応としてはいるものの、別校の良否を経験している2年生・3年生は対象から外し、入学門数がない新1年生のみを対象としています。これは作戦的なのです。加えて、県立高校を二種に共学化するに於ける根拠は全くありません。

(3) 県教委は今後の共学化は「教育的配慮から行うものではない」と答えていました。これが宮城県の教育にとって何等かあるとした感覚だと感じました。

## 質問3 関連：募集要項の発表

そもそも問題は前面遮断機器である県教委にあります。毎年掲示には「関係者の理解を得ながら」と記されているにも拘わらず、県教委が理解を煩めままであります。合意形成を経ず実行する県教委こそ問題です。其の根拠の中、募集要項の発表などを統括しており、県教委の根拠は教育委員会です。内閣検討が不充分なまま、政策決定が先づされ実行されることの問題を関係機関に伝えることは重要なことです。

## 質問4 関連：差し止め裁判

去る11月23日の意見広告において、その訴訟は仙台二高共学化を対象としたものであることは文脈より自明です。

既成事实を前提としての正当性に対するのは正しかいことなでしょうか。疑問に思います。仙台二高共学化施設の現状に根拠があると考えております。

## 質問5 関連：県立高校と県民

県立高校は県民のものです。そして同窓会というものは特別の権限や特権的地位があるとは考えておりません。私共も一県民です。しかし、その学校を思つてそれを大切にするのは生徒、保護者、教職員、そして卒業生です。母校の行く末に心を込めて母校の發展を願うのは卒業生として当然の心と存じます。

件名：〔公表〕平成19年1月27日 宮城県立高校特異構成(平成13年3月)



意見広告

平成19年1月27日 宮城県立高校特異構成(平成13年3月)

件名：〔公表〕平成19年1月27日 宮城県立高校特異構成(平成13年3月)

## 県立高校一律共学化反対

## 県教育委員会の暴走

## 共学化の押し付けは宮城の汚辱

## 其学化の押し付けは宮城の汚辱

## 其学化の押し付けは宮城の汚辱

## 其学化の押し付けは宮城の汚辱

## 其学化の押し付けは宮城の汚辱

## 其学化の押し付けは宮城の汚辱

## 其学化の押し付けは宮城の汚辱

◆

宮城県立高校の一高共学化に関する  
ご要旨>

平成19年1月27日  
宮城県仙台第二高等学校同窓会

今回の本県立高校一高共学化は「宮城県立高校特異構成」が原因となっているのですが、その経緯構成の成立過程とその内容に問題があります。今回の一高共学化は、前項よりの教員の主導から発生したのです。またその推進過程も強制的、一方的なもののです。育成構思に隠されている「男女共同教室」が何故全校共学化に結びついたのか合理性が見出せませんし、県教委が共学化の理由として挙げている事情も、共学化を強行するなどの根拠を有していません。以下要旨を記し、詳細は次頁以降に記します。

## 質問1 国連：県立高校一高共学化反対

私は、県教委が「出した想定」すべての県立高校を平成22年度で県立化するに見送りを有しています。この「一高共学化」は「一方の偏屈であり、県内の合意形成がされておりません。県教委は、「共学化は被検者の理解を得ながら進め」と県立高校特異構成(平成13年3月)に記載されています。しかし、理解が得られているとは言ひ難い状況です。理解が得られないまま進めていることが問題です。共学は仙台二高の実情に反対しております。別途学校については、それぞれの歴史、伝統を踏み仕事、保護者、同窓生等の意見を尊重すべきものと考えますが、現時の学校についてお答えしているだけではありません。

## 質問2 関連：県教委の暴走等

(1) 黒川校長待合室掲示物には共学化は「理解を得ながら」と記ってきましたが、県教委は理解を得られないことを示唆しているのが県立高校で実行できると公言しています。これを暴走と私は捉えております。(2) 平成11年の県教委アンケートは冒頭で「宮城県内男女別々に学ぶ公立高校の比率が全国で一番高い」とか、「全國的には共学化の流れ」とが確認してあります。これは誇張に当たります。また、調査対象には一般市民の他、中学校や高等学部も含まれていましたが、専門学校だけを対象とし、高等学校に至っては別校校長対応としてはいるものの、別校の良否を経験している2年生・3年生は対象から外し、入学門数がない新1年生のみを対象としています。これは作戦的なのです。加えて、県立高校を二種に共学化するに於ける根拠は全くありません。

## 質問3 関連：募集要項の発表

そもそも問題は前面遮断機器である県教委にあります。毎年掲示には「関係者の理解を得ながら」と記されているにも拘わらず、県教委が理解を煩めままであります。合意形成を経ず実行する県教委こそ問題です。其の根拠の中、募集要項の発表などを統括しており、県教委の根拠は教育委員会です。内閣検討が不充分なまま、政策決定が先づされ実行されることの問題を関係機関に伝えることは重要なことです。

## 質問4 関連：差し止め裁判

去る11月23日の意見広告において、その訴訟は仙台二高共学化を対象としたものであることは文脈より自明です。

既成事实を前提としての正当性に対するのは正しかいことなでしょうか。疑問に思います。仙台二高共学化施設の現状に根拠があると考えております。

## 質問5 関連：県立高校と県民

県立高校は県民のものです。そして同窓会というものは特別の権限や特権的地位があるとは考えておりません。私共も一県民です。しかし、その学校を思つてそれを大切にするのは生徒、保護者、教職員、そして卒業生です。母校の行く末に心を込めて母校の發展を願うのは卒業生として当然の心と存じます。

# 宮城の教育再生と当面の問題について

高2回 朝 倉 亮

亮

昨年末、五十九年振りに教育基本法が改正され、現在戦後レジームからの脱却を目指して教育再生を求める声と期待は全国的に高まっている。

ふりかえれば、四年間の共学反対運動は仙台旧制二中から現二高まで一〇七年の歴史の教育行政の再生を図るものであった。

その中にあって同窓会報第三十九号の「共学化問題始末記」なるものを読んでみたが、投稿者の意見は時代に逆行するものである。母校仙台二高の正義と質実及び信義の伝統の真の意味を知らない。当面見遁しえないので三十九号投稿者に反論しその非違を糾したい。

一 同窓会報の発行は同窓会の最重要事業である。仙台第一高等學校同窓會會則第六条には、「本会はその目的を達成するため次の事業を行なう。」

一 会報及び会員名簿の発行

と規定されており。同窓会員は、同窓会会則を信頼し毎年それら事業を維持するため、

年三、〇〇〇円（新卒業生は三、五〇〇円）の会費を納入しておる。いわば同窓会報は、

母校仙台二高の存在を誇りとする同窓会員の淨財によって支えられておる。三十九号投

稿者は三、〇〇〇円を納めたから言いたいことを言うなど

と書いておるが、同窓会員が知りたいのは、同窓会の真実と正しい動向に関する記事で

あって、三十九号の投稿者のように揶揄中傷を聞くために会費を納めているのではない。

投稿者は先ずなによりも同窓会規則の趣旨及び自己の良心に問うて物を言って貰いたい。

二 投稿者は「マッチポンプ」ともここまできた」と自己評価している。一体マッチポンプとは何か。広辞苑によると、

マッチポンプとは「意図的に自分で問題を起こしておいて

起こしたもめごとの鎮め役を

引き受け、その過程で利益を得る人」のことを言う。虚栄も一つの利益である。二重に同志を裏切っている。このよ

うな発想を仙台第二高等学校の同窓会報に持ち込むこと自体、同窓会の品格に関わる問題である。そのような低劣な

處世術の披露は、同窓会報の汚辱であって、現役生指導の教育理念にも反する。

三 また請願運動が破れたから住民投票をやるなどと言つておるが、住民が主導する直接請求には膨大な人手と資金を要する。しかも住民主導の直接請求は、平成初年度時点においてすでに全国的に三十九連敗を続けておった。仮に一条令が曲がりなりに可決されたとしても、判例によって知事首長を拘束できないことに

なっておる。直接請求は現実的にも法的にも実現不可能な

行動であった。投稿者は、直接投票の団体を作ると称し反対運動から離脱したが、その後どうしたというのか。マッ

チポンプ式などの思い付きで叶う事業ではなかった。今回も何時之間にか共学派に転向している。不可解である。これも請願が否決されたからと規定されているようである。しかし、地方議会の議決があつたからといって違法でないとはいえない。（最高裁の判例）

地方議会の議決がすべて正しくいうなら教育基本法の改正も教育再生の議論も起きないといふべきだ。

四 投稿者は、逆に地方自治法によって保障された住民訴訟を非難・揶揄しておる。しかし、宮城県県立高校一律共

学化は、男女共同参画社会の発想を前知事が恣意によって利用したパフォーマンスから始まった。教育委員会の「県立高校の将来構想」はそれに追随したものであつて、教育

城の学力状況の中で、それらを棚に上げ、一律共学化に狂奔した理由は一体何であったのか。その動機・目的・手続き等重大瑕疵の存する一律共

学化の計画は、今後の争訟においても法的にも実現不可能なものである。現住民訴訟において立証した宮城県議会の正

式議事録等にも記録されている。しかも同構想を実現するため一方的に仙台二高の共学化を公表し、男女の性差による差別の禁止を謳いながら、入学後は女子生徒の部活動九

種目を制限するなどの差別を押しつけている。心身の発達が著しい高校時代において、従来別学校で平等に享受しておった体育の機会を奪うこと、情操教育の劣化につながるものである。平等の標榜はすでに歪曲されている。国際規約にも違反している。

教育委員会との九回におよぶ調整会議においても男女共学の教育上のメリット、デメリットは何一つ明らかにされなかつた。教育委員会は男女が一緒に学ぶのが自然だからと言うが、イジメ問題・未履修問題・全国最低クラスの宮城の学力状況の中で、それらを棚に上げ、一律共学化に狂奔した理由は一体何であったのか。その動機・目的・手続き等重大瑕疵の存する一律共

学化の計画は、今後の争訟においても法的にも実現不可能なものである。現住民訴訟において立証した宮城県議会の正式議事録等にも記録されている。しかも同構想を実現するため一方的に仙台二高の共学化を公表し、男女の性差による差別の禁止を謳いながら、入学後は女子生徒の部活動九

種目を制限するなどの差別を押しつけている。心身の発達が著しい高校時代において、従来別学校で平等に享受しておった体育の機会を奪うこと、情操教育の劣化につながるものである。平等の標榜はすでに歪曲されている。国際規約にも違反している。

教育委員会との九回におよぶ調整会議においても男女共学の教育上のメリット、デメリットは何一つ明らかにされなかつた。教育委員会は男女が一緒に学ぶのが自然だからと言うが、イジメ問題・未履修問題・全国最低クラスの宮城の学力状況の中で、それらを棚に上げ、一律共学化に狂奔した理由は一体何であったのか。その動機・目的・手続き等重大瑕疵の存する一律共学化の計画は、今後の争訟においても法的にも実現不可能なものである。現住民訴訟において立証した宮城県議会の正式議事録等にも記録されている。しかも同構想を実現するため一方的に仙台二高の共学化を公表し、男女の性差による差別の禁止を謳いながら、入学後は女子生徒の部活動九

五 投稿者が忌避する反対運動の十万人署名や高校生二〇〇〇名の行進は、公安委員会の許可のもと整然と行なわれた。非難るべき何物もなれど。

い。

六 マッチポンプと称して騒ぎを起こした投稿者は「生徒は静かに勉強させよ」などと説教する資格はない。

七 われらは決して現在の生徒諸君を非難するものではない。

## もう一つの共学反対運動

高8回 山下健二

会報第三十九号に掲載された清野英一さんの「共学化問題始末記」を読み、一時期清野さんとこの運動を共にした一人として、若干の違和感を覚えましたので、敢えて駄文を呈する次第であります。

清野さんの共学化反対運動の目的は主に次の二点だと思います。

ば、行政施策として「全ての県立高校の共学化」が決定された段階で、この運動の矛を收めざるを得ないという当然の帰結になるわけです。

しかししながら、共学化反対運動にも当初からもう一つの考え方があったのです。それはおおむね次のようなものであります。

① 戦後、GHQの方針によって強制された日本の公立高校の男女共学制度は、間もなく六十年にもなるとしており、これが、そして県民に対するどのような手段で周知徹底されたのかなどについて具体的な説明が一切ありません。

一方、平成十一年十二月九日の宮城県議会で、浅野史郎前知事は「ジェンダーフリー時代において普通高校を含む全ての県立高校の共学化を進めたい」旨を明言しています。この発言に至る過程で、ジエンダーフリー思想を信奉する一部の学者や県会議員・県高教組組合員等、浅野氏支持者

料や県教委の説明内容をかいづまんでご紹介します。

まず①について、県教委は「共学化の方針は平成七〇八年頃に決まっていた」という

大要次のように説明しています。即ち、

「県立高校は税金で設置運営されているので男女が平等に利用できなければならず、性別で門戸を閉ざしているのは望ましくない」と。この考

して、共学問題について世間の耳目を集めること

二、別学校を残すなら仙台二高が最適校であり、もし仙台二高が別学校として残らないのであれば、反対運動を続ける意味はなく、その時点でこの運動は速やかに撤収すべきであること

この間に共学制度の弊害部分も盛んに言われだして久しいにも拘らず、「なぜ今さら、宮城県において『全ての県立高校の共学化』なのか?」といふ疑問。

② 共学・別学それぞれの教

い。教育行政の誤りを糾しただけである。同窓会員諸氏の誤解を解いておきたい。住民訴訟控訴人は四名である。

これら三つの疑問について、県教育委員会(以下、「県教委」と略称)に何度質問しても理解できる回答は得られませんでした。そこで、「全ての県立高校の男女共学化」について私の手元にある関係資料や県教委の説明内容をかいづまんでご紹介します。

まず①について、県教委は「共学化の方針は平成七〇八年頃に決まっていた」という

大要次のように説明しています。即ち、

「県立高校は税金で設置運営されているので男女が平等に利用できなければならず、性別で門戸を閉ざしているのは望ましくない」と。この考

が利用する県民会館や図書館などの、いわゆる「箱もの」と同一に捉える短絡的思考以外の何物でもありません。

そこでは、「学校」という「目的」のために、「特定年代」の人々が利用する「特別な施設」であり、一般的な「箱もの」とは基本的に異なるものであるという認識が根本的に欠落しているのです。このような人々が現在の宮城県の教育の掌にあたっているのが現実なのです。

そして共学化することの教育上の利害得失について何度も質問しても県教委は、「教育

上での見地からではなく、性差解消面での配慮だ」と繰り返すばかりです。つまり教育制度の変更にあたって、教育的な配慮や効果ではなく、ジェンダー・フリー思想を基盤にした形の上で男女共同参画形式を優先して施策を進めているのです。教育の見地からの検討を放棄しての共学化の推進策はどうしても理解できません。

「一国の興亡は、その国の教育の興亡」には、世界の歴史が教えています。世

界の土俵の次元が違っているのですから、清野さんが言われるような「勝ち負け」の問題については県議会の承認を得ているから」という理由で敢えて無視しようとしています。しかしながら、「地方教育行政の組織と運営に関する法律」等によれば、地方の教育制度についての直接的な権限は、教育委員会（方針の決定）と知事（それに伴う予算の執行）にあります。仮に議会の採択があつても、教育制度についての強制性はなく、アドバイスレベルのものに過ぎません。

多くの県議は、「教育面での問題がないわけではないが、少子化対策といわれると、共学化も止むを得ない」と考えているようです。別学制度の存続を望んでいる多くの県民の意見が、このような形で抹殺される理由が理解できません。

私達は、別学制度の存廃をまず教育論の面から考へるべきだと主張しているのですが、行政側は全く別の角度から施策を推し進めています。つまり双方の論点が初めてから全く噛み合っていないのです。両

## 同窓会によせられた 叙勲のご報告

拝啓

新緑の候、同窓会の

諸兄には、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、私こと高二卒の仲間に入れて頂いている同窓生ですがこの度の春の叙勲に於て瑞宝中綬章を拝受致しましたので、ご報告申し上げます。

## 春の叙勲者

瑞宝双光章

秋元博之

(中35回)

高松一孝

(中35回)

森博志

(高2回)

## 秋の叙勲者

瑞宝中綬章

櫻田俊郎

(高6回)

日本学士院賞

平朝彦

(高17回)

つたない文集ですが、母校から頂いた恩恵と母校愛のなせるものとお許し頂き、ご配賜りますようお願い申し上げます。

末筆ですが、皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

平成十九年四月十九日

森博志

## I [一般会計] 平成18年度収支決算報告並びに平成19年度収支予算案

(単位：円)

区分	項目	平成18年度 自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日			平成19年度 収支予算(案)	
		収支決算				
		予算額(A)	実績額(B)	(B) - (A)		
収入	前年度繰越金	1,175,180	1,175,180	0	454,756	
	年会費	8,100,000	9,545,000	1,445,000	7,500,000	
	(入会数)	(2,700人)	(3,181人)	(481人)	(2,500人)	
	入会金	1,130,400	1,152,000	21,600	1,152,000	
	(入会数)	(314人)	(320人)	(6人)	(320人)	
	受取利息	0	1,729	1,729	5,000	
	寄付	0	50,000	50,000	0	
	名簿等売上金	0	0	0	0	
	奨学会受入金	200,000	220,000	20,000	200,000	
	その他収入	0	1,100	1,100	100,000	
	特別会計受入金	0	1,023,198	1,023,198	1,600,000	
	合計(C)	10,605,580	13,168,207	2,562,627	11,011,756	
支出	総会等案内発送費	2,000,000	2,403,174	403,174	2,400,000	
	(発送通数)	(15,000通)	(14,865通)	(△ 135通)	(15,000通)	
	秋季会報発送費	2,500,000	2,648,611	148,611	2,600,000	
	(発送通数)	(15,000通)	(15,000通)		(15,000通)	
	校内活動助成費	1,150,000	1,150,000	0	930,000	
	卒業記念品	650,000	693,000	43,000	700,000	
	総会旅費補助	250,000	237,880	△ 12,120	250,000	
	総会補填	200,000	224,819	24,819	230,000	
	(総会出席者数)	(150人)	(128人)	(△ 22人)	(150人)	
	P 同懇補填	200,000	138,467	△ 61,533	150,000	
	(出席者数)	(200人)	(133人)	(△ 67人)	(150人)	
	地区総会等旅費	150,000	331,659	181,659	150,000	
	地区総会等祝儀	150,000	130,000	△ 20,000	150,000	
	会議費	250,000	283,378	33,378	150,000	
	慶弔費	200,000	350,000	150,000	200,000	
	人件費	600,000	598,255	△ 1,745	650,000	
	事務消耗品費	100,000	239,807	139,807	150,000	
	切手・葉書送料	100,000	194,185	94,185	120,000	
	電話料	140,000	187,502	47,502	140,000	
	振込手数料	150,000	463,641	313,641	300,000	
	設備費	100,000	31,500	△ 68,500	50,000	
	雑費	100,000	53,543	△ 46,457	60,000	
	旅費	0	0	0	390,000	
	その他の	0	390,620	390,620	0	
	共学問題等対策費	1,615,580	1,963,410	347,830	500,000	
	合計(D)	10,605,580	12,713,451	2,107,871	10,270,000	
繰越金	(C) - (D)	0	454,756	454,756	741,756	
現預金等残高 (H19.3月末)	現金(事務局)		37,744			
	現金(事務所)		12,007			
	普通預金(七十七)		362,365			
	郵便振込(大町)		42,640			
	郵便貯金(大町)		0			
	仮払金		0			
	仮受金		0			
	総勘定		0			
	差引合計		454,756			

## II [特別会計] 平成18年度収支決算報告

自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日

(単位：円)

区分	項目	収支決算額
収入	前年度繰越金	21,523,198
	預金利息(1年)	0
	預金利息(解約)	1,209
	合計	21,524,407
支出	一般会計繰入額	1,023,198
	合計	1,023,198
次期繰越金		20,501,209
預金等残高 (H19.3月末)	定期預金(七十七)	20,500,000
	普通預金(七十七)	1,209
	合計	20,501,209

## 平成18年度事業報告

5月23日	火	同窓会総会 第1回当番回期打合会 (高17, 29, 30, 41, 42)	北陵館	18時30分
6月1日	木	同窓会報春季号 発行		
6月7日	水	評議員会	北陵館	18時30分
6月26日	月	同窓会総会 第2回当番回期打合会 (高17, 29, 30, 41, 42)	ホテルメトロポリタン仙台	18時30分
7月1日	土	同窓会総会 懇親会	ホテルメトロポリタン仙台	17時
9月9日	土	臨時評議員会	北陵館	14時
11月14日	火	P T A・同窓会合同新年会 第1回当番回期打合会 (高17, 29, 30, 41, 42)	北陵館	18時
12月1日	金	同窓会報 第39号発行		
12月20日	水	仙台二高クラブ活動後援会費への寄付		
1月5日	金	P T A・同窓会合同新年会 第2回当番回期打合会 (高18, 30, 31, 42, 43)	ホテルメトロポリタン仙台	18時30分
1月12日	金	P T A・同窓会合同新年懇親会	ホテルメトロポリタン仙台	18時20分
2月28日	水	同窓会入会式	仙台二高講堂	10時
3月2日	金	同窓会からの教科指導補助費の寄付	校長室	
3月3日	土	臨時評議員会	北陵館	13時
定例・臨時理事会 (4/5, 5/10, 6/15, 6/24, 7/11, 8/11, 8/24, 9/25, 10/27, 11/13, 11/20, 12/4, 1/15, 2/19, 3/9, 3/27)				
北陵館、他				

## 平成19年度事業計画

5月26日	土	評議員会	北陵館	14時
5月31日	木	同窓会総会 第1回当番回期打合会 (高18, 30, 31, 42, 43)	北陵館	18時30分
6月		同窓会報春季号 発行		
6月22日	金	同窓会総会 第2回当番回期打合会 (高18, 30, 31, 42, 43)	江陽グランドホテル	18時30分
6月30日	土	同窓会総会 懇親会	江陽グランドホテル	18時30分
7月		仙台二高クラブ活動後援会費への寄付		
11月中旬		P T A・同窓会合同新年会 第1回当番回期打合会 (高19, 31, 32, 43, 44)	北陵館	18時30分
12月		同窓会報第40号発行		
1月上旬		P T A・同窓会合同新年会 第2回当番回期打合会 (高19, 31, 32, 43, 44)	(ホテルメトロポリタン仙台)	18時30分
1月11日	金	P T A・同窓会合同新年懇親会	(ホテルメトロポリタン仙台)	18時20分
2月29日	金	同窓会入会式	仙台二高講堂	10時
定期理事会 毎月開催予定				

(注) 以上の事業報告ならびに事業計画案は、毎年定例となっている事業に関するものである。  
(共学化関連の事業については、総会で報告される)

## II 評議員

蔡 優広

去る二月二十八日二高講堂にて高校五十九回生の同窓会入会式が挙行されました。新たに任命された評議員と常任委員及び名簿委員は次の通り。代表挨拶を蔡優広君が行いました。

## 同窓会入会式厳粛に挙行!

講師 長谷川啓三先生  
(東北大学大学院教授)

O P T A 研修会  
(十六時三〇分)

P T A 会長 内田 正之  
同窓会副会長 佐伯 康全  
④来賓紹介  
⑤在仙会員叙勲者へ記念品  
贈呈

学校長 柏葉 浩明  
③挨拶  
②校歌齊唱  
戸田 庆三

⑪万歳三唱  
⑫閉会の辞  
P T A 副会長 加藤 幹夫  
同窓会副会長 麻喜 宏雄

○新年懇親会  
(十八時二〇分)  
①開会の辞  
同窓会事務局長

## 合同新年懇親会報告

## PTA・同窓会

⑥幹事代表挨拶  
前野 文男(高十八回)

岡崎 忠(高十二回)  
福引き

⑦鏡開き  
⑧乾杯

⑨祝宴(アトラクション)

⑩支援歌齊唱

⑪応援歌齊唱

⑫閉会の辞  
P T A 副会長 加藤 幹夫  
同窓会副会長 麻喜 宏雄

⑬万歳三唱  
⑭閉会の辞  
P T A 副会長 加藤 幹夫  
同窓会副会長 麻喜 宏雄

⑮万歳三唱  
⑯閉会の辞  
P T A 副会長 加藤 幹夫  
同窓会副会長 麻喜 宏雄

⑰万歳三唱  
⑱閉会の辞  
P T A 副会長 加藤 幹夫  
同窓会副会長 麻喜 宏雄

高十八・三十・三十一  
四十二・四十三回

昨年末発行いたしました、会報第39号の2頁  
磐井氏の役職名が副会長  
となつておりましたが、正しくは理事でございま  
す。ここにお詫びとともに訂正させていただきま  
す。

● 第39号のお詫びと訂正 ●

## 第九回関西北陵会 総会開催報告

宮城 良輔（高53回）

平成十九年三月十日（土）

午後二時から、例年の通り、社会福祉法人「博愛社」の地域交流センターを会場に、第九回関西北陵会総会が開催されました。仙台から柏葉浩明校長先生、同窓会理事佐藤茂氏（高28回）にご出席いただきました。参加者は二十三名でした。しかし、今回初めてご夫婦での参加があり会場に色を添えました。

校歌斎唱の後、お二人の故者、明城千弥氏（中41回）、曾根嘉隆氏（中37回）に黙祷をささげご冥福をお祈りし、総会の議事に入りました。総会議事の終了後は、「認知と意思決定～科学としての『心』」と題して、菊池輝氏（高41回・京大大学院助手）が講演をしました。菊池氏は土木工学が専門ですが心理学や経済学の

最新の研究成果を取り入れ、難しい内容をクイズ形式も取り入れて分かりやすく説明してもらいました。

今回の総会の大きな関心と話題は、今年度から実施される「共学制度」であり、仙台から出席いただいた佐藤理事から、同窓会としてのこれまでの取り組み、また今後どのような対応をしていくのか、について詳しい説明をお聞きしました。そして、それを中心に懇親会の終了まで今までにない活発な、本音の意見交換に終始しました。

関西に住む同窓生の個人的な気持ちとしては別学制度に捨てがたいノスタルジーを感じながら、「仙台二高としての伝統と教育」を確実に引き継いで欲しいという意見が会員の方の意見だと思われま

## 同期総会開催報告

## 支部総会

## 開催報告

す。懇親会の乾杯の音頭は最長老、進藤信一氏（中43回）にお願いし、最後は凱歌斎唱で来年の再会を期してお開きとなりました。

関西北陵会では常に新しい同窓生を受け入れることを願って土壤を整えています。筆者

に仙台二高のコミュニティがありますので、参考にしてください。

も昨年から参加しましたが、若手も積極的な議論へ参加できる自由闊達な雰囲気は関西ならではのものと感じています。来年からも若手を含め、より多くの同窓生の参加を切望しています。なお、ミクシィにありますので、参考にしてください。

## 岩手北陵会報告

鈴木 恒男（高5回）

平成十九年一月二十七日

第二十五回岩手北陵会が盛岡ホテルメトロポリタンにて開催された。

開会に先立ち平成十八年十二月十六日にご逝去された中40回、故桜井保四郎殿に黙祷を捧げております。

今回は本部から柏葉浩明校長、笹氣光祚同窓会副会長のお二人にご臨席を賜り、綿上華を添えて頂いたことに對し有難く厚く御礼申し上げます。

校歌斎唱の後、氏家和国会長（中44回）からご挨拶があり、ついで来賓のお二人から最近の母校の状況について、昨年度の学生の成績、進学実績、新人女子学生を含む学



入試の結果とその後の進展については、本同窓会報が出るときには既に新たな展開が始まっています（女子七十名入

た。これは出席者一同にとって大きな問題であり、お二人のお話の内容は重大な情報として一人一人の胸に感動を与えてくれた。

入試の結果とその後の進展については、本同窓会報が出るときには既に新たな展開が始まっています（女子七十名入

生諸君がどの様に受け止め、また協力して校風を伸ばしていくか先輩としても目が離せないところとなつた。

## 二高のモットーである文武

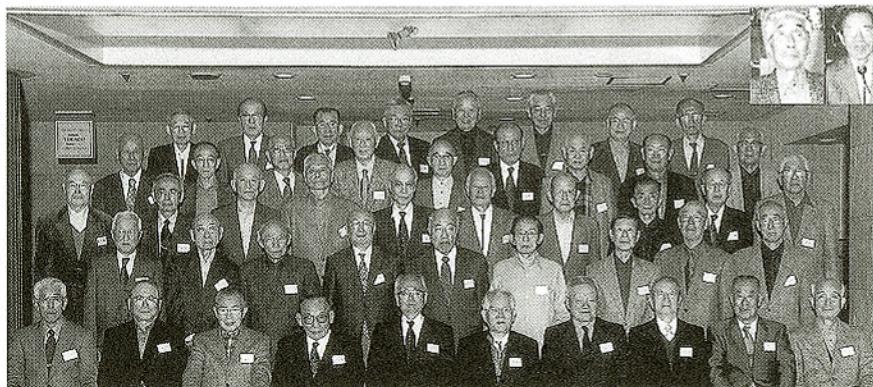
一道、質実剛健の継続は当然の事として、今後同制度が導入される予定の仙台一高そして宮城一、二女等他の高校にどの様な影響を与えるのかを

仙台市民、宮城県いや全国の関係諸氏が見守つていると思うので、対応の誤り無きを心から期待するものであります。

旧仙台二中四十七回は、太平洋戦争開戦直後の昭和十七年四月に二中に入学し、終戦直後の二十一・二十二年三月

## 旧仙台二中第47回 クラス会報告

佐々木一弘（中47回）



会は各自の近況報告を含み、話題は多岐にわたり議論も出て盛会となりました。少し残念な点は最近会への出席者数が減少気味であることで、今回はご来賓を含め十四名で、一人でも多くご出席頂くよう検討していきたいと思います。ちなみに現在の岩手県北陵会の会員数は九十七名となっております。

出席者名  
中44氏家和国、高1佐藤秀雄、高2菊池昭雄、高3和田謙郎、高5鈴木恒男、高6宮沢雄造、高11小林秀樹、高12池野達郎、高12佐藤邦夫、高19千葉知、高23橋浦礼次郎、高36熊谷知之

駅に集合し、母校訪問からスタート。懐かしの川内（仙台）一高では、覚束ない足取りながら教室や在校生の姿に、六十年前にタイムスリップ。来年度から男女共学となる母校に感慨一入なるものがあった。

秋保温泉（ホテルクレセント）での総会では、六十年（数十年振りの再会も多く、はじめは見慣れぬ老顔が、宴が進むにつれて往年の紅顔にフランク・バッカ。が、今回は血氣盛んであった従前までとは趣きを異にし、年輪

菅原隼人、鈴木周行、岩井潤吉、松田武彦、中嶋俊雄、田辺一夫、木皿耕、阿部靖、仁科博之、九里知彦、丹野和郎、安部隆之、横山仁平、天江忠三郎、佐々木一弘、齊藤茂芳、佐藤修喜、斎藤栄夫、金沢融、大衛淳夫、芳賀幸夫、坂田正雄、大野櫻、釜石修、安藤圭

## 旧仙台二中第47回 クラス会報告

佐々木一弘（中47回）

の両年に亘って卒業した。日本の軍国主義の絶頂から敗戦のどん底へ、という文字通り波乱万丈の中学生時代であった。

あれから今年（平成十八年）で卒業六十年。我々も歳七十

七、喜寿となつた。これを機

に、去る十一月九日・十日、現存百四十七名中四十

八名が参集し（県外から十七名）、久し振りのクラス会が開かれた。

当日は、十四時仙台

駅に集合し、母校訪問からスタート。懐かしの川内（仙台）一高では、覚束ない足取りながら教室や在校生の姿に、六十年前にタイムスリップ。来年度から男女共学となる母校に感慨一入なるものがあった。

感動の「卒業六十年・喜寿」記念のクラス会であった。

まことに楽しく、忘れ難い、

立ちはだかる花摘む野辺に日々落ちて／みんなで肩を組みな

がら……誰か故郷を想わざる

ふらの大合唱でお開きとなっ

た。余韻さめやらず、部屋に戻つてからも時を忘れて語り

込む組が少なくなかつた。

まことに楽しく、忘れ難い、

立ちして♪花摘む野辺に日々

落ちて／みんなで肩を組みな

がら……誰か故郷を想わざる

ふらの大合唱でお開きとなっ

た。余韻さめやらず、部屋に

戻つてからも時を忘れて語り

込む組が少なくなかつた。

まことに楽しく、忘れ難い、

ほぼ全員が参加してホテルの

パブを借り占め、カラオケで

席を替えての二次会には、

「フレーフレー二中」のエー

ルで詠められた。

治郎、鈴木憲二、坂本昇造、中村和雄、松川安廣、大沼耕治、石垣真郎、佐武明、菅原智、千葉光胤、小谷州男、若生豊隆、高橋幸男、平塚良治、杉本毅、伊達宗行、吉田勝太郎、丹野諒二、庄司博、加藤信吉、片桐茂彦、鈴木尚典

## 高三十一回生同期会 今年も開催！

遠藤 吉夫（高31回）

去る五月十一日（土）、共

学化後初めての硬式野球定期

戦が開催された夕刻六時より、

仙台ホテルで、高三十一回生

の同期会が開催された。P同

懇や同窓会総会の当番幹事が

回つてくるのに備えて、三十

一回生の同期会の結束を固め

ようという趣旨で、十七年度

に初めて開催し、今年が三回

目の開催。今回はぜひとも恩

師の先生方も招待しようとい

うことで、連絡をさしあげたと

ころ、武田道直先生、太宰芳郎先生、青砥健先生、佐藤健

仁先生の、四人の先生方にご

出席いただき、会は大いに盛

り上がつた。六月三十日には、

いよいよ当番の同窓会総会。

ぜひとも多くの同級生が総会に参加される」とを期待したい。  
平成十九年度参加者  
恩師の先生方→武田道直先



て、写真は当然白黒だ。  
卒業記念アルバムが配布され  
た。それは十八×二十六の大  
きさで、国分町阿部写真館が  
発行元となっている。今と違っ  
て、写真は当然白黒だ。

雷電を捉えよ  
—河合校長の思い出—  
鹿目 彰 (中35回)

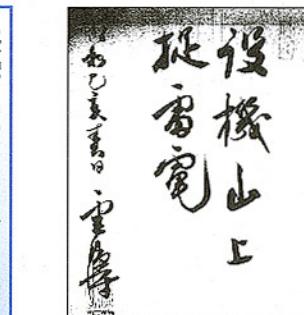
昭和十年三月某日、待望の  
河合校長の正装した写真があ  
り、記念にサインでもして頂  
こうと、級友の後について校  
長室に出向いた。そこには今  
まで一度も入ったことがないの  
で、聊か緊張した。

校長が私に「志望は?」と  
尋ねた。「電気工学を勉強した  
い」と答えた。河合校長は暫  
し瞑想。やがて筆を取り、一

## 会員短信

連絡先 遠藤吉夫  
(勤務先 仙台二高)  
メール yoshi0-3625@  
(電話・FAXは同窓会直通)

吉田尚 (以上二十七名)



共学について思うこと  
大友 節 (中39回)

何時も同窓会報をお送り頂  
き、御礼申し上げます。  
(昭和十四年三月卒)、昭和十  
七年九月東北帝大臨時附属医  
専門部を繰り上げ卒です。

大戦には中国大陸で兵站病院  
付の軍医少尉で、二十一年復

員。その後、岩手県の県立大  
船渡病院の眼科医長。当時、  
前浅野知事のお父上が内科医  
長で、東北大の大先輩で色々  
ご指導にあずかりました。あ  
の時の坊やが知事閣下とは、  
我ながら長生きし過ぎたと思  
います。仙台二高、三年間トッ  
プで東大ストレート、上級公  
務員試験通過とは。私には付  
き合いたくない相手です。

昭和二十四年から五十二年  
まで二十八年間、仙台通信病  
院眼科医長を勤め上げ、昭和  
五十二年七月に眼科診療所を  
持ち、平成十一年に高齢のた  
め老人性難聴と膝関節変形症  
で歩行困難のため廃院。今は  
何もする事なし。臨床に対する  
未練はあるのですが、今更  
老医の出る幕はありません。  
昨今の男女共学問題につき  
まして、私なりの意見を申し  
上げます。これは単なる個人  
意見で、忘れ去って頂いて結構  
です。長女が三女高出身で、  
これがまだ強硬にねばつてしま  
ますが。

私は旧制仙台二中第39回  
中、一県位男女別学の高校が  
あります。愛校心は余りないで  
す。今年の四月に何十年振り  
で、グランドに散る桜の花見  
に行きました。見納めと思いま  
してね。

学則に「婦女子と道端で立ち  
話をしてはなりません」とあ  
りますが、その会津高と会津  
女子高が合同して共学となっ  
て、会津が落城しては。また  
鹿児島でも共学になつたみた  
いで、行く先は余り良い方に  
は見えないと思います。

とすれば、共学となれば  
「宮城県仙台二高」の看板は  
下ろして貰います。市内から  
見て西になるから西陵高(西  
高はあります)で良いでしょ  
う。又、同窓会の北陵も不使  
用。仙台二高同窓会員は卒業  
証書に仙台二高校長印の押し  
たものを最後とする。又、旧  
制仙台二中は二高同窓会から  
外しても良いでしょう。最後  
の卒業生は今年七十七歳です。  
今後十年位で消滅するでしょ  
う。私で八十四歳。来年二月  
で八十五歳、あと何年という  
より何日と言つた方が良いと  
思いますが。

私の個人の考えでは仙台二中  
は廃校で消滅したと思ってお  
ります。愛校心は余りないで  
す。今年の四月に何十年振り  
で、グランドに散る桜の花見  
に行きました。見納めと思いま  
してね。

男孫は泉高校に入りました。

二高には偏差値が不足とやら。本人も二高希望しません。旧仙台二中の五年三組の出身で持て余し組の出です。それでも尻を叩かれての受験教育で、何とかストレートで医専に入れたのは感謝しますが、卒業式の後、これで刑務所から出られるといった感があつたのは否めませんでした。老医のたわ言ご放念下さい。

## 追記

第一、第二、第三男女高というナンバーは廃止した方がかえって現代的ではないでしょうか。



五仙会は本誌に三回程度書いていますが、結成五十年を迎えてます。昭和三十四年に手塚さんと尾瀬の出合いが「一期一会」となり、その後の私の人生に大きな影響を与えたました。

手塚さん、長岡さんは慶應学部に在学中だった昭和三十一年にお二人が仙台にいらした折に仙台二高の同期で親友の我妻征光を紹介したのが始

まりでした。我妻は野球部で甲子園大会に出場、東北大卒です。その後、東京で四人で交友関係が続き、お互いに結婚式に出席した事を思い出します。四人のメンバーが大きく変わったのは昭和五十九年に仙台二高の同期の平磯哲男を我妻が紹介して参加してからです。平磯も甲子園出場時の二高の主力選手でした。彼はその後立教大を卒業しました。彼は山が好きな男で、家族同伴で尾瀬に行こうと、企画し実行してくれました。昭和六十一年八月、家族全員で奥さんの提案で今後集まる奥さん同伴で食事した折に長岡さんの提案で北陵会は、北陵会第20回の様子

## 再開後五年目を迎えた北陵会

加藤 幹夫（高26回）

五仙会は本誌に三回程度書いてますが、結成五十年を迎えてます。昭和三十四年に手塚さんと尾瀬の出合いが「一期一会」となり、その後の私の人生に大きな影響を与えたました。

手塚さん、長岡さんは慶應学部に在学中だった昭和三十一年にお二人が仙台にいらした折に仙台二高の同期で親友の我妻征光を紹介したのが始まりました。彼は山が好きな男で、家族同伴で尾瀬に行こうと、企画し実行してくれました。昭和六十一年八月、家族全員で奥さんの提案で今後集まる奥さん同伴で食事した折に長岡さんの提案で北陵会は、北陵会第20回の様子



北陵会第20回講師 中村氏



北陵会第20回の様子

なり、又、子供たちが結婚する時は、各家族でお祝いを出そうという事になり現在まで五家族十二人のうち十人にお祝いを出しております。

十年前までは一年に一回の旅行を実施していましたが、平成十四年我妻が山形から宮城県遠刈田へ移動したので東京近郊四家族は年に三回程度東京近郊を歩こうという事にしていました。

昨年は東京下町、都電荒川線に乗り小径を散策し、五月頃には皇居と東御苑を散策しました。散歩した後は長岡さんから写真集を、又手塚さんからは感謝のファックスを送つてくれます。全員が集まり食事での話題は女性が主役で、女性の強さを思い知らされる今です。

の会員が集い、設立して間もないプロバスケットボールチーム仙台エイティナイナーズを運営する会社、株式会社リンクの代表取締役の中村彰久氏（高41回）の講演に耳を傾けました。東大大学院でプロスポーツビジネスの世界を知り、日本での実現に努力している中村氏との懇親会も先輩が講師を応援する激励の場となりました。また今年三月十四日には、第二十二回目の北陵会として㈱一ノ蔵代表取締役会長の櫻井武寛氏（高14回）を講師に迎え、日本酒の美味しさに秘められた作り手のこだわりとともに実際に日本酒を堪能しながら聞くという贅沢な会を持つこともできました。このように再開から五年目を迎えた北陵会は、仙台二高同窓のすばらしい講師の協力の下、同窓生会員の楽しいサロンとして認められてきたように感じています。

次回六月八日の北陵会は、今年元気な活躍を見せている東北楽天ゴールデンイーグルスの運営会社㈱楽天天球団に在籍する唯一の仙台二高OBの藤原政洋氏（高39回）を講師に開催する予定です。このようにこれからも北陵会を通じて各分野に進出している仙台二高の卒業生の活躍を伝えることを使命に、同窓の輪が広がり、同窓生が懐かしさと

夢を一緒に語る場を提供できるようにと私たちスタッフは考えて北陵会を運営していきます。これからも同窓諸兄の理解とご支援をよろしくお願ひします。

北陵会は仙台二高の同窓の方であれば誰でも参加できますが、年会費三千円と講演会のたびに懇親会の食事代として三千円が必要となります。詳しく述べになりたい方、入会をご希望の方や北陵会の運営スタッフに参加したい方は高26回加藤幹夫まで左記のメールかFAXでお知らせください。こちらから入会方法や開催予定などをお知らせいたします。

勤務先 新陽ランドリー  
FAX 022-376-5512  
eメールアドレス  
saundry@cocoa.ocn.ne.jp

仙台二高吹奏楽部  
OB会 「二吹会」  
立ち上げ式・懇親会  
和賀 久佳（高32回）  
会 費 五、〇〇〇円

なり、大変好評を博しました。これを機会に、本格的に吹奏楽部OB会としての活動を継続することになり、来たる九月二十三日（日）に吹奏楽部OB会（「二吹会」）を正式に立ち上げようとの話がまとまりました。

本会報を通じて、吹奏楽部OB各位にそのことをお知らせいたします。今後、OBの皆様の消息を確認しながら、正式なご案内をお送りしたいと思いますので、よろしくお願いします。なお、お問い合わせは、仙台二高・高32回和賀久佳まで連絡ください。

## 同窓生からの寄贈本の紹介

1100五年十一月

葉鷄頭×2冊

花野抄 第十集

大航海時代叢書・仙台叢書 計83冊

草木の肖像

皇太子誕生

リットの教育哲學

事故と心理

大塚甲山遺稿集 第六巻・第七巻

Ecoleで学ぶ人口統計学

風 鈴

詩集 遠雷の響き

Hスペラント日本語辞典

吟口杏子の「だわり台湾案内

(決定版) 正伝後藤新平 全八巻

貧困の光景

成熟する追憶

朝倉 滋（中43回）様

加藤 文彬（高11回）様

吉水 決（高3回）様

佐藤 博實（高19回）様

杉本 毅（中47回）様

杉本 毅（中47回）様

西方 守（高25回）様

吉田 信彌（高22回）様

和田 瑞穂（高6回）様

鈴木 孝（高24回）様

和田 光平（高39回）様

柴山 純一（高20回）様

早坂明一朗（高5回）様

西澤 潤一（中44回）様

石井 敏夫（中44回）様

森 博志（高2回）様

※右記寄贈本のうち一部につきまして紹介が遅れましたこと、この場合をお借りしてお詫び致します（編集係）

## 平成19年度 大学入試合格者数

## 国立大学

大学名	計	現役生	浪人生
北海道大	15	5	10
弘前大	2	1	1
岩手大	2	1	1
東北	文	1	1
	法	10	7
	経	12	7
	教	2	1
	理	10	3
	工	45	23
	医/医	11	3
	医/保	2	1
	歯	2	1
	薬	3	0
大	農	6	3
	小計	104	50
宮城教育大	8	4	4

大学名	計	現役生	浪人生
秋田大	4	3	1
山形大	14	5	9
福島大	5	1	4
茨城大	1	1	0
筑波大	5	1	4
群馬大	1	0	1
埼玉大	3	1	2
千葉大	2	2	0
東京海洋大	1	0	1
電気通信大	2	0	2
東京大	文Ⅲ	3	1
	理I	6	6
	理II	1	0
	理Ⅲ	1	0
小計		11	7
東京外語大	1	0	1

大学名	計	現役生	浪人生
東京学芸大	3	2	1
東京工業大	6	2	4
東京農工大	2	0	2
一橋大	3	2	1
横浜国立大	6	4	2
新潟大	2	0	2
富山大	2	0	2
金沢大	2	0	2
山梨大	1	0	1
信州大	1	1	0
静岡大	1	0	1
名古屋大	2	0	2
京都大	7	4	3
神戸大	1	0	1
琉球大	1	0	1
国立大学合計	221	97	124

## 私立大学

大学名	計	現役生	浪人生
東北学院大	21	7	14
慶應大	20	6	14
中央大	41	6	35
東京理大	36	5	31
日本大	10	2	8
法政大	11	3	8
明治大	30	2	28
早稲田大	35	9	26
立命館大	10	3	7
青森大	1	1	0
岩手医大	4	1	3
東北工大	2	0	2
東北福祉大	4	0	4
東北薬科大	6	3	3
いわき明星大	1	1	0
奥羽大	1	1	0
獨協医大	1	0	1
埼玉医大	1	0	1
東京歯大	1	0	1
千葉科学大	1	1	0
青山学院大	4	0	4
桜美林大	1	0	1
学習院大	1	0	1
北里大	6	2	4
共立薬大	2	0	2

大学名	計	現役生	浪人生
杏林大	1	0	1
国学院大	4	0	4
国際基督教大	1	0	1
駒沢大	1	0	1
芝浦工大	8	4	4
順天堂大	2	0	2
上智大	5	2	3
成城大	2	1	1
専修大	5	0	5
創価大	3	3	0
玉川大	1	1	0
多摩美大	1	0	1
帝京大	1	0	1
東海大	4	0	4
東京工科大	2	0	2
東京慈恵会医大	3	0	3
東京農大	7	2	5
日本医大	1	0	1
日本歯大	1	0	1
日本獣医学院	1	0	1
星葉大	2	0	2
武藏工大	2	0	2
明治薬大	2	1	1
立教大	3	0	3
麻布大	1	0	1

大学名	計	現役生	浪人生
神奈川大	3	0	3
神奈川工科大	2	2	0
新潟薬大	1	1	0
金沢医大	1	0	1
京都薬大	1	0	1
同志社大	1	0	1
関西大	2	0	2
関西学院大	2	0	2
私立大学合計	328	70	258

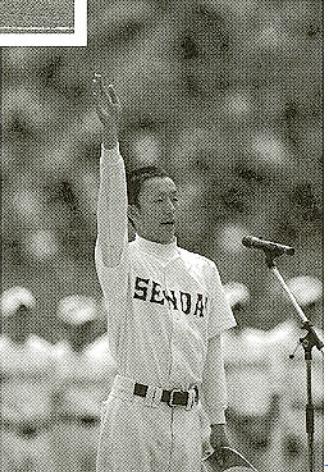
## 公立大学

大学名	計	現役生	浪人生
宮城大	4	1	3
国際教養大	1	1	0
会津大	1	1	0
首都大東京	1	0	1
静岡県立大	1	0	1
公立大学合計	8	3	5

## 大学校

大学名	計	現役生	浪人生
防衛医科大学校	2	0	2
防衛大学校	2	1	1
気象大学校	2	0	2
大学校合計	6	1	5

# 思わぬ大差で敗れる―― 第62回野球定期戦開催



五月十二日、五月の穏やかな日差しのもと第六十二回野球定期戦が、フルキャスロス・タジアム宮城で開催されました。昨年の、九回裏の仙台一高の逆転勝利から一年、その悔しさを晴らすべく、この一戦に臨みました。

試合は、本校の柏葉浩明校長の始球式に続き、十三時〇五分に開始されました。二高先発の主戦田中朋博は、初回一高に安打と四球を許したものの、後続を押さえ無得点のスタートを切りましたが、二回二死から四連打を浴びて、二点を先取されました。昨秋東北大会にも出場している仙

台一高に主導権を握られる展開になるかとの嫌な思いを断ち切るように、その裏、二高は、一高先発の主戦佐藤勝太投手の序盤の不安定な投球にじつくりと向き合い、四死球と敵失をきっかけとして、暴投に安打をからめて、打者一巡で一気に四点を奪取し、意気盛んなところを見せました。

味方の反撃により、田中の立ち直りが期待されましたが、三回表、一死から二塁打を許すと、二死にこぎつけたものの、バックの乱れから一点を献上してしまい、続く四回表にも一死から二塁打、安打を奪われ、四対四の同点に持ち込まれました。

一方二高打線は、三回以降、調子を上げてきた一高佐藤の前に、チャンスは作るもののが三塁打でからうじて、一点を返すのみにとどまりました。八回を終わって五対六と一高リードで迎えた九回表、一高は三番高橋の二塁打の後、四球をはさんで、五番菊地の三塁打で一点を追加、二高を突き放しにかかります。ここで主戦田中をあきらめた二高ベンチは、阿部、須賀、長谷川と三投手を繰り出しました



## 三部定期戦及び 軟式野球定期戦結果速報

今年は硬式野球定期戦の翌週、五月十九日に行われました。各部熱戦、激戦が展開されました。

### 試合結果

バレーボール	二高	2-3	一高	敗北
柔道	二高	2人残し		勝利
バスケットボール	二高	70-69	一高	勝利
軟式野球	二高	3-4	一高	敗北

高に大量九点を奪われ、九回裏の反撃もままならず、五対十五のスコアで敗戦となりました。応援団リーダーの不在が続中、応援委員会を中心に組織した本校応援団は、同窓生の参加もあり、最後まで熱い声援をグラウンドに届けてく

れを止めることができず、結局この回打者十四人、安打七本、四死球四つに敵失と、一

七回となり、来年の定期戦に捲土重来を期するよう努めたいと思います。最後まで熱心に応援してくださった皆様に、この場をお借りして御礼を申し上げます。

(硬式野球部長  
高32回 和賀久佳)

▼転任の先生方▲  
渡辺 尚人 教頭(社会)  
(仙台市教委)

▼退任の先生方▲  
箭内 美希 養護教諭  
(福島県に採用)

佐々木敬次 主幹  
(貞山高)

小野木圭子 教諭(理科)  
(古川黎明高)

(岩沼高等学園)

藤木 雅之 教諭(数学)  
(多賀城高)

和賀 満江 講師(家庭科)  
大槻 勇 菅原講師(理科)  
千葉 瑞枝 代替事務職員  
(大河原商業高)

筒井 保子 代替事務職員  
三嶋 廣人 菅原講師(新任)  
(仙台教育事務所)

佐藤美樹子 主事  
(仙台教育事務所)

佐藤美樹子 主事  
(貞山高)

佐藤 有功 教諭(保健体育)  
(宮工高)

森 俊之 教諭(社会)  
(宮二女高)

庄子 英利 教頭(理科)  
(蔵王高)

柏谷 正博 教諭(国語)  
(仙台一高)

新谷 仁 教諭(英語)  
(宮二女高)

小林 康一 教諭(社会)  
(多賀城高)

熱海 芳雄 教諭(保体)  
(多賀城高)

奥山 雅敏 教諭(英語)  
(仙台一高)

菅原 淳 教諭(英語)  
(泉館山高)

仁木 和寿 教諭(数学)  
(多賀城高)

吉田 明弘 教諭(数学)  
(古川黎明高)

## 今春の人事異動

鈴木 公司 技師  
(名取北高)  
梅原登世子 主事(福利課)  
(仙台教育事務所)  
佐久間正裕 主幹  
(研修センター)  
吉田 明弘 教諭(数学)  
(石巻高)

樽野 幸義 教諭(英語)  
(古川黎明高)  
山口 晴永 教諭(数学)  
(古川黎明高)  
佐久間正裕 主幹  
(研修センター)  
吉田 明弘 教諭(数学)  
(石巻高)

坂本 陽子 教諭(理科)  
(古川黎明高)  
小野木圭子 教諭(理科)  
(岩沼高等学園)  
佐々木敬次 主幹  
(貞山高)  
箭内 美希 養護教諭  
(福島県に採用)  
佐藤美樹子 主事  
(仙台教育事務所)  
佐藤美樹子 主事  
(貞山高)

「会員相互の情報交換の場」としての同窓会報を充実させるために、会員諸兄の寄稿をよろしくお願い申し上げます。同期の方々の集まりの様子、地区・職場毎の集まりの事実誤認、誹謗・中傷等がある場合は、掲載できない場合があります。尚、投稿の中に、匿名は受付しません。尚、次号は平成十九年十月末日が原稿〆切です。事務局にて送付下さい。

會員訃報

事務局だより

今年度より、三年間にわた

林さん事務を長年支えて顶いた  
林さんの後任の佐々木恵理さんともどもよろしくお願ひし  
ます。

林さんは、仙台一高百周年事業を展開する前に勤務を始め、およそ九年間にわたって携わっていただきました。百年周年のさまざまな事業実施の連絡調整、その後の学校の環境変化にまつわる激動の同窓会活動を見事に支えてくださいました。



家庭で、お孫さんのお相手を  
しながら、趣味にもいそしみ、  
人生を満喫したいと話してい  
らっしゃいました。本当にお  
疲れさまでした。

## 年会費納入にご協力を

## 郵便払込に一本化

同窓会年会費の払込について同窓諸兄のご協力をお願  
いいたします。払込方法は従来通り郵便局のみといたし  
ます。

一昨年、コンビニ払込の活用を試みましたが、システム変更・並びに諸経費の問題により、今年は従来の郵便局扱いのみといたします。

昨年度は15,000名に送付して、3,181名の納入でした。  
(前年比106%)

本年度も会費納入について格別のご協力をお願いします